
編集後記

2015年ノーベル賞生理学医学賞を受賞された大村智北里大学特別栄誉教授は、会見で「研究の原動力は何か」と尋ねられて、次のように答えたそうです（日刊工業新聞平成27年10月7日）。「沢山失敗しても、一つびっくりするくらい上手いくと、その時の喜びは何にも代え難い。その後は何度失敗しても怖くない。成功する人は他人の2倍、3倍と失敗している。若い人には失敗を恐れないことを伝えたい。」

一方、岡本太郎著「自分の中に毒を持って」（青春文庫）にて次のような記述があります。パリに留学中の25歳の岡本青年がカフェに佇みながら決然と誓ったそうです。これから迷ったら「必ず危険な道をとる」と。この考えが生涯、岡本太郎の行動規範になります。「あれかこれかという場合に、なぜ迷うのか。こちらを選んだら食っていけないかもしれない、もう一方の道は誰でもが選ぶ安全が保証された道だ。それなら迷うことはないはず、もし食うことだけを考えるなら、そうじゃないから迷うのだ。危険だという道こそ、自分の行きたい道なのだ。本当はそちらに進

みたいのだ。だから、そっちへ進むべきだ。ほくはいつでも、あれかこれかと言う場合、これは自分にとってマイナスだな、危険だなと思う方を選ぶことにしている。」

生き方に関わる重大な選択であれば、危険な道を選ぶのは難しいでしょうが、研究に関してであれば、誰も選ばない道を選ぶことができます。個々の研究者が抱える研究の「壁」に対し、保守的にならずに、課題の本質・真理の探究を目指して、失敗を恐れず、危険な道に挑み、やがて何にも代え難い本当の喜び・達成感に期待したいものです。その経験が大村先生の指摘される、次の挑戦への屈強な原動力になります。こうした挑戦の元になる情熱をもつことこそが、いまイノベーションが期待されている日本に必要とされることなのでしょう。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻

／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第43巻 第2号（通巻第292号）

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円＋税（本誌購読料は会費に含まれます。）

平成28年3月15日発行

編集者 一般社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 一般社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒 101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1

お茶の水センタービル 6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社